議案 1

議案１　2023 年度事業報告（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

日本気象学会は，定款第3条のとおり「気象学，大気科学等の研究を盛んにし，その進歩をはかり，国内及び国外の関係学協会等と協力して，学術及び科学技術，並びに文化の振興及び発展に寄与すること」を目的として，2023 年度も定款第4条で定める以下の事業を推進した．

・ 気象学，大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催
・ 機関誌その他気象学，大気科学等に関する図書等の刊行
・ 研究の奨励，援助及び研究業績の表彰
・ その他この目的を達成するために必要な事業

Ⅰ　気象学・大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催事業の実施（公益目的事業１）

気象学･大気科学に関する研究成果や最新の知見を，大会における講演発表，公開気象講演会，各支部における研究報告会並びに普及活動等を通じて社会に公表し，学術及び科学技術並びに文化の振興及び発展を図った．

１．研究会等の開催

（１）全国大会

春季並びに秋季に開催している全国大会は，会員等が研究及び調査の成果を発表する研究集会であり，2023 年度は以下のとおり開催した．各大会は講演企画委員会と担当機関内に設置された実行委員会が協力して，企画運営を行っている．春季・秋季大会の発表論文の予稿（要約を 1 ページに掲載）を全て掲載した「大会講演予稿集」（電子媒体）を，大会参加者に事前に配布した．

① 2023 年度春季大会

2023 年春季大会では授賞式・受賞記念講演現地開催およびオンライン配信で実施した．またシンポジウムとして「夏季アジアモンスーン研究の多面的展開」を現地開催およびオンライン配信で実施した．

期　日：2023 年 5 月 16～20 日
場　所：東京大学本郷キャンパス　安田講堂
担　当：東京大学大学院理学系研究科，東京大学先端科学技術研究センター，国立極地研究所，東京都立大学
参加者：644 名
講演数：専門分科会 65 件，一般発表 197 件（口頭発表 135 件（Zoom ミーティング），ポスター62 件）

② 2023 年度秋季大会

授賞式･受賞記念講演および口頭発表を現地で実施した．ポスター発表はオンラインで実施し，また，授賞式・受賞記念講演および口頭発表は現地開催およびオンライン配信で実施した．

期　日：2023 年 10 月 23～26 日
場　所：仙台国際センター会議棟
担　当：仙台管区気象台，東北大学，日本気象協会東北支社，日本気象予報士会東北支部
参加者：875 名
講演数：専門分科会 152 件，一般発表 356 件（口頭発表 235 件，ポスター発表 121 件），合計 508 件

（２）調査研究会

2023年度の実施はなかった．

（３）研究連絡会

研究連絡会は会員の自主的な発議に基づき，理事会の承認を得て設置されており，若干の世話人を中心に運営されている．現在合計 18 の研究連絡会が設置されている．2023 年度は 17 の研究連絡会が合計 29 回の研究会を開催した．

研究連絡会	期日	場所	テーマ
惑星大気	2023 年 4 月 18 日	オンライン	第 118 回オンラインセミナー「火星北半球における風下山岳波に伴う波状雲の形成高度」
惑星大気	2023 年 4 月 27 日	オンライン	第 119 回オンラインセミナー「金星雲層高度での温度・熱潮汐波の長期変動と極域温度構造との関係性」
計算科学	2023 年 5 月 9 日	オンライン	第 3 回 気象・気候 計算科学研究連絡会，気象・気候モデルの GPU 対応
気象学史	2023 年 5 月 13 日	東京都新宿区 ｵﾝﾗｲﾝ	第 13 回気象学史研究会「戦前日本におけるベルゲン学派気象学への対応」
メソ気象	2023 年 5 月 15 日	東京大学 ｵﾝﾗｲﾝ	小倉義光先生追悼シンポジウム―メソ気象研究の将来展望―

国際協力	2023 年 5 月 17 日	オンライン	第 2 回国際協力研究連絡会
惑星大気	2023 年 6 月 15 日	オンライン	第 120 回オンラインセミナー「木星内部ねじれ振動と対流圏数年変動」
惑星大気	2023 年 7 月 4 日	オンライン	第 121 回オンラインセミナー「地球のアルベドの減少と南北対称性について」
非静力数値モデル	2023 年 8 月 31 日～9 月 2 日	札幌市	6th International Workshop on Nonhydrostatic Numerical Models 参加者 98 名内海外より 22 名
熱帯気象	2023 年 9 月 4～5 日	東京大学	第 14 回熱帯気象研究会
惑星大気	2023 年 9 月 11 日	オンライン	第 122 回オンラインセミナー「金星 GCM で再現された水平超粘性に依存しないスーパーローテーション」
メソ気象	2023 年 9 月 23～24 日	高知市	第 9 回メソ気象セミナー「ナウキャスト」
惑星大気	2023 年 10 月 2 日	札幌市 オンライン	第 123 回オンラインセミナー
メソ気象	2023 年 10 月 22 日	東北大学	第 56 回メソ気象研究会「海洋とメソ気象」
惑星大気	2023 年 10 月 23～26 日	仙台国際センター	専門分科会「観測・理論・数値シミュレーションによる惑星大気研究の進展」
オゾン	2023 年 10 月 23 日	仙台国際センター	日本におけるオゾン観測の変遷と今後のオゾン研究の方向性を議論
地球観測衛星	2023 年 10 月 23 日	仙台国際センター	2023 年度地球観測衛星研究連絡会
気象学史	2023 年 10 月 24 日	仙台国際センター，ｵﾝﾗｲﾝ	第 14 回気象学史研究会「史資料の発掘・保全と気象学史研究―東北そして英国から」
統合的陸域圏	2023 年 10 月 25 日	仙台国際センター，ｵﾝﾗｲﾝ	今永久凍土上の北方森林生態系に何が起こっているのか
気候形成・変動機構	2023 年 10 月 25 日	仙台国際センター―	第 3 回研究連絡会「海と大気から捉える地球規模と日本規模の気候形成と変動」(参加者 56 名)
気候形成・変動機構	2023 年 12 月 1～2 日	京都大学	大気海洋結合系の変動・変化と広域・持続的な異常天候
観測システム・予測可能性	2023 年 12 月 6～7 日	京都大学	異分野融合による東アジアの天候に係わる気候システム研究の更新
惑星大気	2023 年 12 月 21 日	オンライン	第 124 回オンラインセミナー「MRO/MCS データを用いた火星の傾圧不安定波・ロスビー波と物質輸送の研究」
長期予報	2024 年 1 月 19 日	気象庁 オンライン	日本の夏の記録的高温など，2023 年に世界各地で頻発した顕著現象と海況・大気循環
惑星大気	2024 年 2 月 8 日	オンライン	第 125 回オンラインセミナー「化学過程を実装した GCM による金星大気化学種計算」
航空気象	2024 年 2 月 9 日	気象庁 オンライン	第 18 回航空気象研究会「航空機の運航に影響を及ぼす気象の観測，予報，情報提供」
天気予報	2024 年 2 月 18 日	東京都豊島区 オンライン	第 21 回天気予報研究会「気象衛星」
台風	2024 年 3 月 18～19 日	京都大学	台風セミナー：米国フロリダ州立大の Robert Hart 教授の講演
中層大気・対流圏過程	2024 年 3 月 19 日	オンライン	大気自由振動研究の最近の進展

（4）気象研究コンソーシアム

気象研究コンソーシアムは，日本気象学会と気象庁とで締結された包括的な共同研究契約「気象庁データを利用した気象に関する研究」に基づく枠組みである．2023 年度は、共同研究契約について打ち合わせをするとともに、申請された課題の採否を審議し、共同研究が適切に進められるようにした。また、各年度の報告のとりまとめを行った。

（5）他学会との共催等

他学会と共催で，気象学・大気科学に関する研究会やシンポジウム等を実施し，研究成果の公開に努めるとともに，関連分野の研究者との情報交換・情報共有に努めた．2023 年度は以下の会合等を開催した．

① 第40回エアロゾル科学・技術研究討論会

主催：日本エアロゾル学会（2023年8月30日〜9月1日：桐生市市民文化会館）

② 第6回「非静力学モデルに関する国際ワークショップ」

主催：第6回「非静力学モデルに関する国際ワークショップ」実行委員会（2023年8月31日〜9月2日：北海道大学学術交流会館他）

③ 日本地球惑星科学連合大会

日本地球惑星科学連合が主催し，気象学会等が協力して，2023 年5 月22〜26 日にハイブリッド方式（幕張メッセ＋オンライン開催）で開催された．本大会では，気象学会がプログラム委員の選出や，共催セッションを開催した．

④ 防災学術連携体への参画

第15回防災学術連携シンポジウム（2023年4月11日：気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開）における講演等による連携活動を実施した．

（6）支部研究会活動

各支部において年1〜4回，地域特有の現象等に関する気象学・大気科学の研究成果の発表会を行い，成果の公開に努めるとともに，研究者間での情報交換・情報共有に努めた．2023年度は以下のとおり実施した．

① 北海道支部　ア　第1回研究発表会　2023年7月14日(北海道大学及びオンライン開催)(参加者約40名)

イ　第2回研究発表会　2023年12月12〜13日（札幌管区気象台及びオンライン開催）（参加者約135名）

② 東北支部　支部研究会　2023年度は秋季大会を同支部で開催(仙台市)するため実施しないこととした．

③ 中部支部　支部研究会　2023年11月23〜24日(富山大学オンライン併用，発表28題)

④ 関西支部　ア　四国地区支部例会　2023年12月1〜2日（香川大学ハイブリッド開催，発表26題）

イ　近畿地区支部例会　2023年12月17〜18日（オンライン開催，発表18題）

ウ　中国地区支部例会　2023年12月22日（オンライン開催，発表15題）

⑤ 九州支部　支部発表会　2024年3月3日（福岡管区気象台ハイブリッド開催）ジュニアセッションと合わせて開催

⑥ 沖縄支部　支部研究発表会　2024年3月2日（オンライン開催）

（7）その他

① 日本気象学会夏期特別セミナー（若手会　気象夏の学校）開催への援助

本セミナーは，若手研究者の研究発表の実施並びに最先端の研究を行う気象研究者による講演を行うことにより，若手研究者相互の交流や研究意識を高めることを目的としており，日本気象学会が援助を行っている．2023年度は，以下のとおり行われた．

・日付：2023年9月8〜10日
・場所：横浜市栄区
・内容等：合宿形式で実施，3名の講師による招待講演，109件の学生による一般講演を実施
・参加者：142名

２．一般向け普及・啓発活動

（1）公開気象講演会

公開気象講演会は，教育と普及委員会が中心となって，一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果を分かりやすく解説することを目的として開催している．2023年度は以下のとおり開催した．

・日付：2023年11月19日
・場所：オンライン開催
・テーマ：日本海側の大雪とJPCZ
・参加者：約300名

（2）第57回夏季大学

夏季大学は，最新の気象学の知識の普及を目的に，小中高校の教職員や，気象の愛好家を対象とした，やや専門性の高い講座で，教育と普及委員会が中心となって毎年度開催している．2023年度は「新しい気象学2023」をテーマに以下のとおり開催した．

・日付：2023年8月5〜6日
・場所：オンライン開催
・参加者：181名

（3）気象サイエンスカフェ

気象サイエンスカフェは，日本気象学会と日本気象予報士会が共催する「気象の専門家や有識者」と「その話を聴いたり話したりしてみたい方」との科学コミュニケーションの場として，2006 年春に東京でスタート

した．現在は各支部を中心に全国各地で開催している．2023 年度の開催状況は以下のとおりである．また，同様の活動は（6）で示すように，各支部においても実施している．

① 2023 年 5 月 27 日，場所：web 開催，台風発達のメカニズム
② 2023 年 10 月 29 日，場所：みなと科学館(Web 併用)，映像で見る雷の世界
③ 2024 年 2 月 4 日， 場所：みなと科学館(Web 併用)，線状降水帯の予測精度向上のための新しい観測～線状降水帯をつかまえろ～
④ 2024 年 2 月 25 日，場所：みなと科学館(Web 併用)，南極の近年の気候変化と観測

（4）ジュニアセッションの開催

ジュニアセッションは，気象学に興味を持つ主に高校生・高専生（中学生も可）を対象に，生徒達が気象学会の大会会場において専門家の前で発表体験をすることにより生徒達の気象学に対する興味や探究心が高まり，学会としての社会貢献にとどまらず将来の気象学の発展とより豊かな社会の招来に繋がることを期待して開催している．2023 年度は，以下のとおり実施した．なお，本事業は小倉義光・正子基金により実施している．

・日付：2023 年 5 月 16～17 日
・場所：オンライン開催
・参加校数，発表件数：18 校，21 件

（5） 先生のための気象教育セミナー

気象に関する教育支援を目的に「先生のための気象教育セミナー」を開催した．なお，本事業は小倉義光・正子基金から資金補助を受けて実施した．

・日付：2024 年 1 月 7 日
・場所：港区立みなと科学館
・参加者：中学校・高等学校教員を中心に 38 名
・テーマ：雪や氷の造形を楽しもう

（6）支部普及活動

各支部において，それぞれの地域の実情に応じて，「気象講演会」，「サイエンスカフェ」，「ジュニアセッション」，「こども気象学士教室」，「離島お天気教室」等，一般市民並びに子供を対象に普及活動に努めている．2023 年度は以下の活動を実施した．

支部	活動	日付	場所	内容	参加者
北海道	気象講演会	2023 年 8 月 31 日～9 月 2 日	北海道大学ほか	「第 6 回非静力学数値モデルに関する国際ワークショップ（NHM-WS2023）」の共催	98 名，海外 22 名
		2023 年 10 月 31 日	札幌市	シンポジウム「気象状況に応じた北海道の効率的な物流体系の確保に向けて」（日本気象協会北海道支社 主催）の後援	110 名
		2023 年 10 月 20 日	札幌市 ｵﾝﾗｲﾝ	講演会「吹雪に関するマクロとミクロの視点」	会場参加 22 名
東北	気象講演会	2023 年 11 月 18 日	秋田市	秋田県の農業・水資源の未来と相次ぐ大雨災害から地球温暖化を理解する	約 70 名
	サイエンスカフェ	2023 年 12 月 2 日	仙台市	地球温暖化のいま～もっと知ってほしい温暖化の問題～仙台管区気象台、日本気象予報士会東北支部と連携	14 名
中部	気象講座	2024 年 1 月 21 日	名古屋市	第 26 回公開気象講座，気候変動のリスクと予測研究の最前線	74 名
	サイエンスカフェ	2023 年 11 月 26 日	名古屋市	第 25 回サイエンスカフェ「ニューノーマル化する異常気象 どうなる地球 どうする人類！」	41 名
	サイエンスカフェ	2024 年 2 月 10 日	長野市	気象サイエンスカフェ in 信州長野，「どうする！？ 信州の気候」	19 名
	サイエンスカフェ	2024 年 2 月 18 日	名古屋市	第 26 回サイエンスカフェ，「源氏物語 in 名古屋」	45 名
関西	夏季大学	2023 年 8 月 26 日	ｵﾝﾗｲﾝ	第 44 回夏季大学「線状降水帯」	223 名
	講演会	2023 年 12 月 1～2 日	香川大学 ｵﾝﾗｲﾝ	「台風予測精度向上にむけた取り組み」	39 名
	講演会	2023 年 12 月 22 日	ｵﾝﾗｲﾝ	エアロゾル・雲の気候影響:数値モデリングと衛星観測	30 名

	サイエンスカフェ	2024年2月17日	大阪市	気象会社に就職して5年目の若手職員を迎え，現場の経験談を紹介する	13名
九州	気象教室	2023年11月26日	福岡市 オンライン	データ同化　気象予測の最前線～観測データの効果的利用～	会場10 オンライン80
	サイエンスカフェ	2024年2月3日	福岡市	地球温暖化で農業はどう変わるか?	14名
	ジュニアセッション	2024年3月3日	福岡市 オンライン	・3Dハザードマップの作成及び災害シミュレーション ・知らない現象（不知火現象）を科学する ・えっ、島が浮いている！？ ・不知火海を吹く風を探る	会場 26名 オンライン約12名
沖縄	「子ども気象学士」教室	2023年8月21～23日	那覇市	気象台職員及び部外講師（気象アナウンサー），支部理事による講話，気象・地震実験，露場見学，地震津波ポスター作成	小学生10 保護者5
	離島お天気教室	2023年10月31日	多良間島	実験（液状化，大気圧，竜巻発生，空気砲）と講話「空のふしぎ」	児童35 教職員5
	子供向けサイエンスカフェ	2023年12月16日	沖縄市	テーマ　君も今日から「天気の子」！？天気のどうしてを知るといいことあるかも！	幼稚園～高校生30名
	防災気象講演会(後援)	2024年1月20日	那覇市	テーマ　迫り来る災害に今できること	144名
	サイエンスカフェ（共催）	2024年2月17日	浦添市	台風研究の最前線	48名

（7）その他

①気象予報士CPD制度の支援

2016年度から，気象予報士の気象技能の継続的な研鑽を目的としたCPD（Continuing Professional Development）制度を支援するため，日本気象予報士会のCPD認定委員会に気象学会から委員3名を派遣している.

Ⅱ　機関誌その他気象学・大気科学等に関する図書等の刊行事業の実施（公益目的事業２）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を，刊行物によって社会に公表することを通じて，学術及び科学技術の振興と発展を図っている．2023年度は，以下の１～4の4種類の図書の刊行を行った.

１．機関誌「天気」の刊行

「天気」は，和文の査読つき論文，気象学・大気科学に関する解説，学術集会の報告，その他日本気象学会や関連学会等の情報などを掲載した月刊の機関誌である．編集作業等は，全国の会員42名で構成された天気編集委員会が担当している．2023年度は「第70巻4号～第71巻3号　計673ページ」を刊行した．なお，第71巻第1号より一般会員には電磁的方法により提供し，希望者のみに冊子体を有償で配布することになった.

２．英文論文誌「気象集誌」の刊行

「気象集誌（Journal of the Meteorological Society of Japan)」は，英文の査読つきオリジナル論文及びレビュー論文のみを掲載する隔月刊の論文誌である．編集作業等は，海外の研究者を含む45名で構成された気象集誌編集委員会が担当している.

2023年度は「第101巻2号～第102巻1号　計515ページ，論文27編」を刊行した．また，2016年の投稿論文から冊子体刊行に先んじて電子ジャーナル版を公開している.

３．英文レター誌「SOLA」の刊行

「SOLA」は，速報性を重視したWeb上（電子版）のみで公開する英文の査読つきレター誌である．速報性を重視しているため，1編の英単語数の上限を3100語（約4～6ページ程度）としている．編集作業等は，海外の研究者を含む47名で構成されたSOLA編集委員会が担当している.

2023年度は「第19巻，第20巻，特別号の第19A巻，第19B巻，計369ページ　論文47編」を刊行した.

４．「気象研究ノート」の刊行

「気象研究ノート」は気象学・大気科学の最新の知見や技術について，テーマごとに詳細に解説を掲載した不定期刊行の学術誌である．編集作業等は，委員12名で構成された気象研究ノート編集委員会が担当している.

2023年度は，247号「再生可能エネルギーの気象学」，248号「点発生源からのメソスケール拡散シミュレーション ―福島第一原子力発電所事故をふまえて―」を刊行した.

Ⅲ　研究の奨励，援助および研究業績の表彰事業の実施（公益目的事業３）

学術及び科学技術の振興及び発展を図ることを目的に，気象学・大気科学に関する個人又はグループの優秀な研究・教育・普及活動等の業績を顕彰している．

また，若手研究者を対象に，国外での学術研究集会への参加に際しての旅費等の援助を行うとともに，我が国で開催する学術研究集会への国外からの参加を促すために，旅費等の支援を実施している．これらの活動を行うことにより，国際学術交流を推進している．

1．研究業績の表彰

（1）日本気象学会の表彰

日本気象学会では，日本気象学会賞，藤原賞，岸保・立平賞，堀内賞，正野賞，山本賞，小倉奨励賞，松野賞の８つの賞を設け，気象学・大気科学の多様な分野と学生を含む幅広い世代の優れた研究者を顕彰し，奨励事業の拡充を図っている．それぞれの賞では，候補者推薦委員会より推薦された候補者について，理事全員の投票により受賞者を決定している．

このほか，気象集誌論文賞とSOLA論文賞は，それぞれの編集委員会が決定している．2023年度は以下の通り顕彰を実施した．

賞	受賞者	業績又は対象論文
日本気象学会賞	竹見哲也（京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門）	多様な環境場におけるメソ降水系の動態とメカニズムの解明
藤原賞	謝　尚平（ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ大学ｻﾝﾃﾞｨｴｺﾞ校ｽｸﾘｯﾌﾟｽ研究所）	大気海洋相互作用研究による気候形成・変動機構の理解の深化への貢献ならびに国際連携を通じた若手・中堅研究者の育成
	高薮　縁（東京大学大気海洋研究所）	熱帯・中緯度域の雲降水システムの大規模な組織化に関する先駆的研究ならびに衛星気象学・気候学の発展への貢献
岸保・立平賞	中川勝広（国立研究開発法人情報通信研究機構） 山内　洋（気象庁気象研究所台風・災害気象研究部）	Cバンド固体素子二重偏波気象レーダーの社会実装への貢献
堀内賞	塩竈　秀夫（国立環境研究所）	気候モデルを用いた将来気候変化の不確実性の理解と影響・対策評価を連携する学際研究
正野賞	釜江陽一（筑波大学生命環境系）	気候システムの速い変化のメカニズム理解にもとづく大気大循環変動および大気の川の研究
	坂崎貴俊（京都大学大学院理学研究科）	大気潮汐と自由振動に関する先端的研究
山本賞	岩切　友希（気象庁気象研究所）	多年性ENSO現象のメカニズムに関する研究
	柳瀬　友朗（理化学研究所開拓研究本部）	放射対流平衡実験による湿潤対流の自己集合化メカニズムの解明
小倉奨励賞	伊藤　忠（日本気象予報士会東海支部）	Webで得られるデータを駆使したメソ気象現象の調査研究
	小気候団体研究会	市民との協働で実現させた恵那地方盆地霧及び木曽南部降雪の調査研究
松野賞	岡崎　恵（京都大学）	雨滴粒径分布を表す新関数を用いた層状・対流混合降雨の観測値解析
	國吉　優太（東京大学）	大気海洋結合モデルペースメーカー実験による氷期の数千年スケール大気海洋変動における大気-水循環の影響調査
	澤田　尚樹（京都大学）	海鳥バイオロギングで推定した海上風のアンサンブルデータ同化
	清水　陸（京都大学）	GPM衛星搭載二周波降水レーダのブラインドゾーン軽減による山岳域降水検出の改善
	高野　雄紀（東京大学）	熱帯における海面水温と関連した降水のライフサイクル
	田之上　菜美（東京都立大学）	衛星搭載に向けた直接検波式ドップラー風ライダーのシミュレーター開発
	樋口　太郎（東京大学）	大気海洋結合モデルを用いた現代～将来と過去の温暖期の水循環応答の違いに関する研究
	青島 美穂（富山大学）	高海面水温上での海上気温上昇の抑制
	秋山 静佳（京都大学）	GPM/DPRによる固体降水の粒径分布推定
	浅野 裕樹（筑波大学）	非静力学効果を考慮したおろし風の理論

	天野 未空（三重大学）	気候変化から探る2010年以降冷夏が発生していない理由
	飯田 康生（京都大学）	クーリングパラメータと高解像度海洋モデルを用いた 2019 年台風 Faxai と Hagibis の通過に伴う SST 低下の定量化とその要因
	石崎 秀晃（京都大学）	再解析データを用いたPekerisモードの等価深度の推定
	猪股 一馬（東京大学）	熱帯域におけるCongestusの降水と環境場との関係性について
	今田 衣美（九州大学）	逆問題による大気ラム波自動検出の試み
	大友 啓嗣（筑波大学）	東京における夏季の短時間強雨に対する都市の影響
	小野 有紀（富山大学）	単一レーダー高頻度観測に基づく3次元変分法による 3次元風速場推定
	川村 岳（東京大学）	北半球環状モード変動の季節内変調へのENSOの影響と将来変化
	佐野 藺姫（東北大学）	大気環境を考慮した日本周辺における夜空の明度の定量的な評価(2)
	周　習霊（北海道大学）	Synoptic characteristics of summer heatwaves over northeastern Siberia
	杉浦 冬悟（東京都立大学）	海洋大陸で衰退するMJOの東西循環構造
	土田 耕（九州大学）	CMIP6 piControl 実験における放射フィードバック強度に関する解析: 全球平均地表面温度の変化と放射応答のラグ関係の観点から
	徳植 啓康（名古屋大学）	降水粒子の非定常落下を考慮したドラッグ効果のモデル化
	戸田 望（京都大学）	赤道大気レーダと境界層レーダを用いた降水雲内の大気鉛直流の推定
	中川 祥緒（東京大学）	大気海洋植生結合モデルを用いた鮮新世と現代の気候差の 要因分析：CO2 vs 地理条件の違い
	野村 希良々（東京工業大学）	東京23区の乱流データベース作成
	橋本 恵一（東京大学）	地球システムモデルMIROC-ES2LにおけるENSO表現と動的陸上植生の関係
	畑 大地（新潟大学）	寒冷渦指標を用いた北陸冬季雷発生時の大気環境場変動
	藤田 駿（京都大学）	乾燥大気大循環モデルは準二年周期振動を生みだすか？
	三田 優里（お茶の水女子大学）	大規模風速場が偏りをもたらす竜巻の進行方向
	渡部 太聞　（琉球大学）	2022年台風第4号の盛衰に対する上層切離低気圧の役割
気象集誌論文賞	平原 翔二, 久保 勇太郎, 吉田 拓馬, 小森 拓也, 千葉 丈太郎, 髙倉 寿成, 金濵 貴史, 関口 亮平, 越智 健太, 杉本 裕之, 足立 恭将, 石川 一郎, 藤井 陽介	Hirahara S., Y. Kubo, T. Yoshida, T. Komori, J. Chiba, T. Takakura, T. Kanehama, R. Sekiguchi, K. Ochi, H, Sugimoto, Y. Adachi, I. Ishikawa and Y. Fujii, 2023: Japan Meteorological Agency/Meteorological Research Institute Coupled Prediction System version 3 (JMA/MRI-CPS3). J. Meteor. Soc. Japan, 101, 149-169.
	川端 康弘,嶋田 宇大,山口 宗彦	Kawabata, Y., U. Shimada and M. Yamaguchi, 2023: The 30-year (1987-2016) trend of strong typhoons and genesis locations found in the Japan Meteorological Agency's Dvorak reanalysis data. J. Meteor. Soc. Japan, 101, 435-443. doi:10.2151/jmsj.2023-025
SOLA論文賞	金田 幸恵, 西井 章	Kanada, S., and A. Nishii, 2023: Observed concentric eyewalls of Supertyphoon Hinnamnor (2022). SOLA, 19, 70-77, doi:10.2151/sola.2023-010.
	鈴木 賢士, 原 優里佳, 杉立 卓治, 清水 健作, 藤原 正智	Suzuki, K., Y. Hara, T. Sugidachi, K. Shimizu, and M. Fujiwara, 2023: Development of a new particle imaging radiosonde with particle fall velocity measurements in clouds. SOLA, 19, 261-268, doi:10.2151/sola.2023-034.

（２）支部における顕彰

北海道支部では，会員の研究の奨励推進の一環として，支部における活動で業績のあったものや支部研究発表会で優れた講演をおこなったものを顕彰している．2023年度は以下のとおり，3名を顕彰した．

受賞者：支部賞：星野剛，支部発表賞：佐藤海斗，森岡丈博

東北支部では独自活動の一つとして，支部研究発表会において優れた講演を行った支部会員から，原則として2名程度選び顕彰している．2023年度は秋季大会を仙台で開催したため，支部研究発表会は中止とした．

中部支部では，若手会員又は研究を本務としない会員で，「気象学の向上に資する研究を行っている」，「気象学の教育・普及活動が特に顕著」，「気象学を応用することにより社会に大きく貢献している」に該当するものを顕彰している．2023 年度は以下の通とおり，2 名を顕彰した．

受賞者：支部長賞：森下和也，森田直樹

九州支部では独自活動の一つとして，会員で，「気象学の向上に資する研究を行っている」，「気象学の教育・啓発活動を積極的に行っている」，「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかの項目に該当する者を最大で 3 名選び顕彰している．

（3）部外表彰等受賞候補者の推薦

関係団体等が主宰するいくつかの賞に対して，日本気象学会として候補者を推薦している．部外表彰等候補者推薦委員会が担当している．

2023年度は，中村尚会員が科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を，奥井晴香会員が日本学術振興会育志賞を受賞した．

2．国際学術交流事業への支援・援助

（1）渡航費の支援

国際学術研究集会等に出席して論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者に，申請によって渡航費の補助を行っている．資格は学会員に限定しないが，原則として修士論文提出程度の研究実績を要する者で，他から渡航費の援助を得られない者に限定している．2023年度は2件の国際集会参加補助申請と1件の国外研究者の招聘補助申請があり，国際学術交流委員会で審査した結果3件とも認められた．

（2）小倉特別講義

国内で開かれる国際学術研究集会の支援として，小倉義光・正子基金より招聘費等を補助し，国際学術交流委員会のもと組織した実行委員会が「小倉特別講義」を大会に併せて実施している．2023 年度は秋季大会（仙台）において，ハワイ大学の Bin Wang 教授を招聘して実施した．

Ⅳ　その他この目的を達成するために必要な事業の実施

1．会員の異動状況

2023 年度の会員の異動状況は下表のとおりである．終身会員は増加したが，一般会員の減少が見られた．

会員種別		会員数 本年度末（2024 年 3 月 31 日）	会員数 前年度末（2023 年 3 月 31 日）	増減数
個人会員	一般	2,358	2,417	△59
	学生	383	382	1
	高年	255	256	△1
	終身	105	89	16
	合計	3,101	3,144	△43
団体会員	団体A	80	82	△2
	団体B	50	51	△1
	団体C	22	22	0
	合計	152	155	△3
賛助会員		23	23	0
名誉会員		15	15	0
計		3,291	3,337	△46

2．役員の選任及び解任など

第 42 期の理事 20 名及び監事 2 名の役員に変更はなかった．（任期は，理事が 2022 年度総会の日から 2024 年度総会の日までの 2 年間，監事が 2020 年度総会の日から 2024 年度総会の日までの 4 年間である．）

2023 年度末時点の理事及びそれぞれの主担当は以下のとおりである．

氏　名	所　属	主　担　当
佐藤　薫	東京大学大学院理学系研究科教授	理事長（代表理事）
橋田　俊彦	元気象庁	副理事長，企画調整，気象災害
青柳　曉典	気象庁大気海洋部環境・海洋課地球環境観測計画調整官	天気編集，小倉奨励賞候補者推薦
荒川　知子	帝京科学大学教職センター教職特命教授	教育と普及
池上　雅明	気象庁大気海洋部気象リスク対策課アジア太平洋気	庶務担当

	象防災センター調査官	
稲津　　將	北海道大学大学院理学研究科教授	松野賞候補者推薦
植田　宏昭	筑波大学生命環境系教授	山本賞候補者推薦
榎本　　剛	京都大学防災研究所教授	電子情報，広報委員会設立準備担当
齋藤　篤思	気象庁高層気象台観測第二課主任研究官	会計担当
佐藤　正樹	東京大学大気海洋研究所教授	学術
高谷康太郎	京都産業大学理学部教授	人材育成・男女共同参画
竹見　哲也	京都大学防災研究所教授	SOLA 編集
竹村　俊彦	九州大学応用力学研究所教授	地球環境問題
坪木　和久	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授	部外表彰等候補者推薦，気象研究コンソーシアム
中村　　尚	東京大学先端科学技術研究センター教授	藤原賞候補者推薦，気象研究ノート編集
橋本　明弘	気象研究所気象予報研究部第一研究室長	講演企画
早坂　忠裕	東北大学大学院理学研究科教授	岸保・立平賞候補者推薦，名誉会員推薦
堀之内　武	北海道大学地球環境科学研究院教授	気象集誌編集，正野賞候補者推薦
三好　建正	理化学研究所計算科学研究センターチームリーダー	堀内賞候補者推薦
渡部　雅浩	東京大学大気海洋研究所教授	学会賞候補者推薦，国際学術交流

また，監事は，以下のとおりである．

氏　名	所　属
鈴木　靖	一般財団法人日本気象協会監事
吉田　聡	京都大学防災研究所准教授

3．声明･提言･要請･要望の発出

気象学会の活動に密接不可分な活動等に関連する事案及び依頼機関等のこれまでの活動等並びに今後の活動等において気象学・大気科学との密接な関連性が認められる事案に対して，気象学会の目的を遂行するために声明・提言・要請・要望を発出することとしている．

2023年度は，声明・提言・要請・要望は発出しなかった．

4．会議等の開催

（1）社員総会

全ての個人会員で構成される社員総会は学会の最高の意思決定機関であり，年 1 回春季大会の期間に開催している．2023 年度は，東京大学安田講堂とオンライン（Zoom Webinar）を併用し開催した．

総会には以下の議案が提案され，議案 1 から 3 については，賛成多数で承認された．

①審議事項　議案 1　2022 年度事業報告
　　　　　　議案 2　2022 年度決算報告
　　　　　　議案 3　2022 年度監査報告
②報告事項　報告 1　2023 年度事業計画
　　　　　　報告 2　2023 年度収支予算

（2）理事会

理事会は原則として 2 か月に 1 回開催し，必要に応じみなし決議（定款第 36 条に基づき，全理事の書面又は電磁的方法による同意が得られた場合）による理事会を開催した．理事 20 名，監事 2 名によって理事会を構成しているが，理事長は必要に応じて支部長等の出席を求めて開催することが出来る．2023 年度の理事会議題（協議事項）は以下の表のとおりである（定常的な報告事項は省略）．

開催年月日	協議事項	協議の結果
第 42 期第 8 回理事会 (2023 年 4 月 14 日)	1. 第 42 期第 7 回理事会議事録の確認	みなし決議で承認
	2. 2022 年度事業報告・2022 年度決算報告・2022 年度監査報告について	〃
	3. 2023 年度総会資料について	〃
	4. 総会参加票について	〃
第 42 期第 9 回理事会 (2023 年 6 月 2 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 42 期第 8 回理事会議事録の確認	〃
	3. 2023 年度総会議事録の確認	〃
第 42 期第 10 回理事会 (2023 年 8 月 9 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 42 期第 9 回理事会議事録の確認	〃
第 42 期第 11 回理事会	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認

(2023 年 10 月 6 日)	2. 第 42 期第 10 回理事会議事録の確認	〃
	3. 大会のあり方検討 WG 趣意書	〃
	4. 選挙管理委員長の選任と第 43 期理事候補者の定数について	〃
	5. 公益社団法人日本気象学会細則の一部改正について	〃
	6. 倫理規程の一部改正について	〃
第 42 期第 12 回理事会 (2023 年 12 月 15 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 42 期第 11 回理事会議事録の確認	〃
第 42 期第 13 回理事会 (2024 年 2 月 2 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 42 期第 12 回理事会議事録の確認	〃
	3. 2024 年度総会告示，総会参加依頼について	〃
	4. 2024 年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みについて	〃
第 42 期臨時理事会 (2024 年 3 月 7 日)	日本気象学会理事の選任についての確認	みなし決議で承認
第 42 期第 14 回理事会 (2024 年 3 月 29 日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第 42 期第 13 回理事会議事録の確認	〃
	3. 第 43 期理事選任候補者について	〃
	4. 特定寄附金の募集に係る募金目論見書「気象夏の学校開催支援寄附金」の募集について	〃

（3）支部長会議

公益社団法人移行に伴い，支部からの理事の選任が廃止されたことから，各支部との連携強化を図るため新たに支部長会議を設置した．新たに設置した支部長会議は，理事長・理事・監事・支部長により構成され，原則として年１回，理事長が招集して開催することとしている．

第 42 期第 2 回支部長会議

日付：2024 年 2 月 2 日

議題：2023 年度支部活動報告

2024 年度支部活動計画

秋季大会の取組・準備状況

（4）有識者会議

有識者会議は，有識者・理事長・理事・監事によって構成し，理事会の諮問事項を審議する．有識者は諮問事項に適任な方に理事長が委嘱する．2023 年度は開催しなかった．

（5）各種委員会

日本気象学会では 23 の委員会を設置して，公益目的事業 1～3 を分担して実施している．なお，上述した 3 つの事業報告の中で言及しなかった事業については，設置している各委員会活動の一環として実施している．

以下に 2023 年度に，各委員会で実施した事業についてその概要を記載する．

・ 気象災害委員会

気象学会HPにおいて，顕著な気象災害に関する気象災害特設ページを運用している．2023年度は，令和5年梅雨前線による大雨について，学会が参加した研究会，会員，関係学会や関係機関における調査・解析や災害調査の結果を，災害直後から一覧できるポータルサイトを運用した．

・ 広報委員会

2023年4月1日に，電子情報委員会の機能を拡張し，広報委員会を設立した。広報のあり方について検討し，秋季大会のプレスリリースを行った．学会サーバやメーリングリストの管理及びウェブサイト掲載情報の更新・機能充実，障害対応に加えて，役員選挙の電子化や「日本の気象学の現状と展望2024」に対する意見の集約を支援した．

以上